

通し番号	3774
------	------

分類番号	12-57-22-11
------	-------------

(成果情報名) 県内酪農家の哺乳牛飼養管理の実態調査	
<p>[要約] 県内酪農家の哺乳技術の実態を把握することを目的として酪農家を対象にアンケート調査を実施し、次のような結果が得られた。</p> <p>初乳は分娩後60分以内に給与する酪農家が多く、その量も2リットル給与が最も多かった。分娩事故などに備え凍結初乳を準備している農家が4割近くあり意識の高さが伺えた。哺乳は1日2回給与が9割を超え、1日哺乳量は4リットル以上が8割を超えた。半数近くの酪農家が哺乳にバケツを使用しており省力化を図っている。給与乾草はアルファルファ、チモシー、スーダングラスが主に給与されていた。</p> <p>人工乳の給与方法、給水についてはばらつきが大きく問題のある酪農家も少なくないため、今後さらに指導が必要であると思われる。</p>	
(実施機関・部名) 畜産研究所・畜産工学部	連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

神奈川県内の酪農家での哺乳技術についてはその実態が不明であり、おそらくそれぞれの酪農家の慣行法によっているものと思われる。哺乳牛の管理は育成牛管理の第1歩であり、ここで失敗するとその後の発育に大きく影響が出てしまうことから、県内酪農家の哺乳技術の実態を把握し、今後の試験研究の参考とするとともに本県酪農指導の参考とする。

[成果の内容・特徴]

1 初乳給与について

8割近くの農家が乳首を使って丁寧に飲ませる努力が伺える一方で、給与量、給与期間とも改善の余地を残していた。

2 哺乳について

給与回数は1日2回が87%、3回が13%であった。給与量は1日4リットルが30%と最も多かったが、3~12リットルと大きな幅が見られた。哺乳道具はバケツが50%近くまであり、省力化が図られていた。

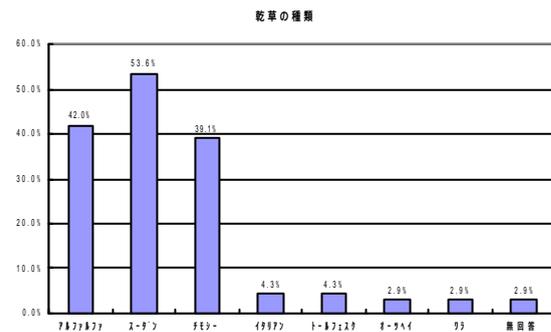
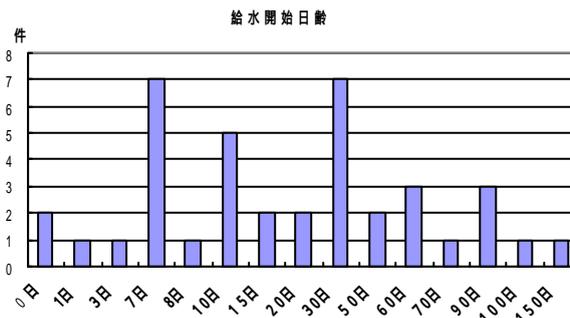
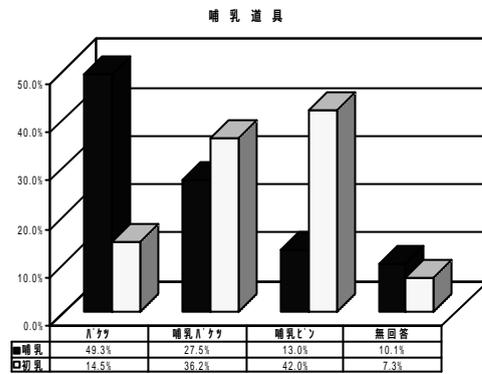
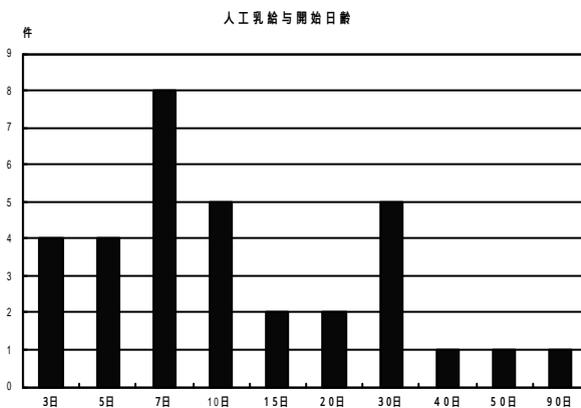
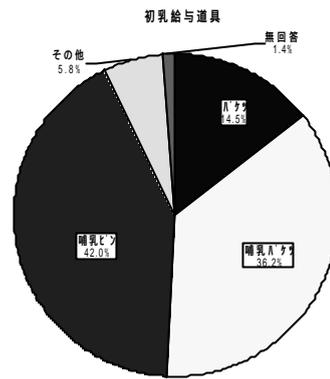
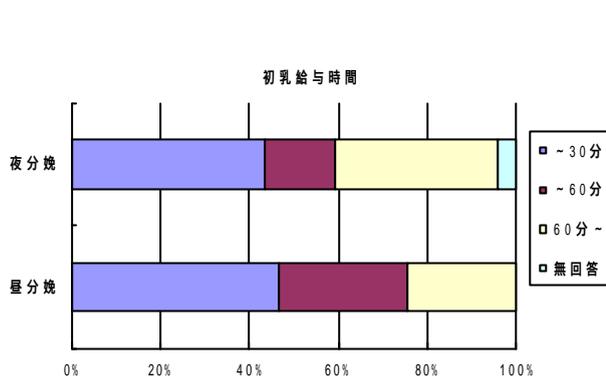
3 人工乳、乾草給与、給水について

全般的に無回答率が高くなり、関心の低さが伺えた。回答のあった中で見ても、給与量、給与期間とも問題のある農家が少なくなかった。乾草給与は草種に問題が残るものの比較的問題は少なかった。給水は人工乳と同様関心が低く給水時期、方法とも指導の必要があると思われた。

[成果の活用面・留意点]

神奈川県下全酪農家を対象にした結果ではないものの、一定の傾向は掴めたので、育成巡回指導などの際に指導用資料として活用。

[具体的データ]



[資料名] 平成12年度試験研究成績書(繁殖工学・乳牛・肉牛・飼料作物)

[研究課題名] 乳牛の早熟性に関する試験

[研究期間] 平成11～12年度

[研究者担当名] 荒木尚登・水宅清二・田中靖彦